



JPI催しのご案内

2014
6

公益社団法人日本包装技術協会

開催要領

会場 公益社団法人日本包装技術協会 会議室 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

日時 平成26年6月26日(木) [第1部]13:15~15:00 [第2部]15:15~17:00

参加費 JPI法人・個人会員:無料 / 一般:3,240円(1部会、税込)

第1部 第80回包装情報研究会

13:15~15:00

【テーマ】NO-FOODLOSS PROJECTの推進について~食べものに、もったいないを、もういちど~

食品ロス削減に関する世界の動き、日本の食品ロスの現状とこれまでの取組、食品ロス削減国民運動（NO-FOODLOSS PROJECT）の今後の展開方向等をお伝えし、容器包装による食品ロス削減の可能性等について、ともに考えたいと思います。

【講師】農林水産省 食品産業環境対策室長

長野 麻子 氏

【コーディネーター】ミードウェストベコ(株) デザイン部 部長 包装管理士
 (株)スマイル 包材事業部 プロジェクト推進担当 部長

池田 民生 氏
 河上 雅彦 氏

第2部 第202回生活者包装研究会

15:15~17:00

【テーマ】食品ロスの削減と食品包装の重要性

1. 食糧危機到来への警告 2. 食品ロス削減の重要性
 3. 賞味期限の延長と商習慣の改善が食品を救う（賞味期限と消費期限のイメージ）4. 高機能包装による食のロングライフ化
 食品包装分野では、できるだけ商品が無駄にならないよう、食品の保存期間を長くする技術開発の努力を重ねてきた。しかし近年、コストをかけて賞味期限を長くするよりも、廃棄物となる包装にコストをかけず、3RのReduceによる包装の簡素化の方に重点が置かれ、商品寿命は短命化されてきたと言える。

最近、農林水産省が「食を大切にする」として食品ロスの削減に取り組み始め、スーパー等の「欠品ペナルティの廃止」や「3分の1ルールの見直し」などを試行するようになり、スーパー自身も発注精度を向上させたり、食品を無駄なく利用したりする方向で努力する必要が出てきている。包装容器は、包装される食品に比較して、環境に与える悪影響が大幅に少ないことも示されており、包装資材を用いて食品ロスを削減することは、環境にとっても大きな貢献を果たすものと期待されている。

このような食品包装技術の更なる高度な取組みにより、食品ロスの大幅な低減が図られると考えられ、日本や世界の食料供給にとって、新たな食を確保することにもつながり、食品包装技術の大きな貢献が期待される。

【講師】一般社団法人日本食品包装協会 理事長

石谷 孝佑 氏

【コーディネーター】(株)協進印刷 取締役 営業部長 包装専士

内山 尚哉 氏

旭化成ケミカルズ(株) 樹脂製品事業部 新事業開発グループ 課長 包装専士

中村 充利 氏

本研究会は包装や物流に関する専門的知識の普及を目的としたものであり、受講のためには同分野での経験が必要です。

6月研究会参加申込書

研究会に参加を希望される場合には、下記申込書にご記入のうえ、本紙をFAXして下さい。(FAX番号 03-3543-8970)

法人会員 ・ 個人会員 ・ 一般		いずれかに必ず○を付けて下さい	
会社名		TEL	
所在地	(〒)	FAX	
参加者	(氏名)	(所属役職)	
	(e-mail)	@	第1部・第2部
	(氏名)	(所属役職)	
	(e-mail)	@	第1部・第2部
	(氏名)	(所属役職)	
	(e-mail)	@	第1部・第2部

